2022 年度

（令和 4 年度）

事業計画書

2022 年 4 月 1 日より 2023 年 3 月 31 日まで

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

2022年度事業計画策定にあたって

2021年度は、2020年度同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、計画していた多くの事業を中止せざるをえない状況となりました。
1981年（昭和56年）の国際障害者年を契機に翌年8月に設立された当基金として、設立時より大切にしてきた、障害の有無に関わらず、誰もが人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現に向け、新型コロナウイルスへの対応を踏まえた事業のあり方を懸命に模索する年となりました。

ふれあいの広場事業は、当基金設立以来、継続して取り組んでいる事業です。スポーツや音楽等を通じて、障害の有無に関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを創造し、自動車総連の各地方協議会の全面的なご協力をいただきながら、内容・規模ともに拡充しつつ開催してまいりましたが、昨今のコロナ禍で一転し、2021年度は1会場のみの開催となりました。
今年度は、新型コロナウイルス感染症予防に留意した参加規模・運営方法、新たな競技内容での実施に向け努力してまいります。なお、全都道府県47会場での開催を目指します。

「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ」は、2019年の台風15号により被害にあわれた千葉県内の障害者施設での取り組みを予定しておりましたが、2連連続での延期となりました。改めて2022年度の実施を目指すこととし、言葉を超えたコミュニケーションの手法を知っていただけるよう、努力して参ります。

ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究は、「障害者施設・団体とのネットワーキングを深める」をテーマに、コロナ禍のなかでも工夫をこらしながら活動を行っている障害福祉サービス事業所の現場の取り組みについて研究を深め発信していきたいと考えています。

昨今の低金利により、基本財産の運用が厳しい状況となっており、併せて新型コロナウイルス感染症の影響による経済状況等から、法人運営の財政的困難さが増しています。したがって賛助会員や寄付者の募集活動をこれまで以上に取り組む観点から、ニュースレターおよびホームページの内容について検討して参ります。

多くの皆様のご理解とご支援のもと本年度の事業が展開できますよう、引き続きのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

２０２２年４月
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

１．ふれあいの広場事業

（１）ふれあいのスポーツ広場の実施

障害の有無に関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。1992 年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、開催しています。

2021 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、鹿児島会場のみの開催となりました。

2022 年度は、ふれあいのスポーツ広場の意義・目的を踏まえつつ、感染予防対策を徹底しながら全都道府県での実施を目指します。

競技内容については、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生を中心に、非接触で人との距離を保ちながら実施できるプログラムの開発を進めており、加えて密を防ぎ、換気や消毒を徹底するなど、スポーツ団体が規定するガイドラインに沿った運営に努めます。

引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催自体の延期・中止も視野に入れながらの準備作業となりますが、多くの関係者、ボランティアの皆様のご支援をいただきながら、全力で推進してまいります。

実施時期 2022 年 4 月～ 2023 年 3 月
開催地域 全都道府県を予定
開 催 数 全国４７会場（予定）
共　　催 全日本自動車産業労働組合総連合会
後　　援 内閣府、スポーツ庁、開催都市、開催都市教育委員会等
協力団体 日本福祉大学 Echos
　　仙台ユニバーサルスポーツ研究会
　　（公社）日本エアロビック連盟
プログラム内容
日本福祉大学教授　藤田紀昭先生の監修の元、障害の有無に関わらず、誰もが共に参加し楽しむことのできる競技を中心に実施します。
また新型コロナウイルス感染症対策のため、非接触で人との距離を確保したプログラムを実施します。

競技内容（例）

☆風船シュート

・実行委員４人でネットを持ち、参加者の頭上を通過していく時に、参加者が椅子に座ったまま風船(小)をネットに投げていく。勝敗は、１施設全員分の風船（小）がネットに早く入った方が勝ち。

☆風船パス

・参加者が円になって、その中心に距離を確保した実行委員がサポートに入りながら、風船（中）を落とさずにバレーボールの要領でパスを回していく。風船をついた回数が多い方が勝ち。

☆じゃんけんダンス

・インストラクター及び実行委員の進行で、ふりつけダンスとじゃんけんダンスを行う。じゃんけんダンスは、＜わきプレス４回＞→＜拍手４回＞→＜膝たたき４回＞→＜じゃんけんポン＞の順番で行う。

☆スローエアロビック

・スローエアロビックは、シンプルで自然な動きを取り入れながら、カロリー消費ではなく、気分を好転させることを重視しています。音楽に合わせて楽しく体を動かすというエアロビックの本質的な魅力を、運動強度が低い運動へと裾野を広げようという考え方に基いています。

※出典：(公社) 日本エアロビック連盟 web ページ

（２）ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらずお互いが尊重しあえるように、ノンバーバル（非言語）という方法でコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

過去2年間は、2019年台風15号において被害にあわれた千葉県内の障害者施設での取り組みを予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により延期となりました。

2022年度は、引き続き千葉県内の障害者施設での実施を計画いたします。

実施時期：2023 年 2 月
対 象 者：障害のある方、教職員、ボランティア等
ファシリテーター：庄﨑　隆志氏（office 風の器主宰・俳優・演出家）
メイミ氏（漫談家・特定非営利活動法人笑顔工房 理事長）

２．開発、普及及び育成事業

（１）各事業報告書の発行

障害の有無に関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、下記の報告書を発行致します。

刊行時期：2023 年 3 月
発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。
発行報告書：ふれあいのスポーツ広場 / ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ / 調査研究事業

（２）ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に努めている障害の有無に関わらず共に楽しみ、共に取り組みながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を中心に掲載した機関誌「ないすはあと」を年 4 回発行します。

発行月：６月、９月、１２月、３月
発行数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。
内　容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

vol.110
2020 年 12 月号
公益財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金
〒 105-0022 東京都港区海岸 1-4-26 ゆうらいふセンター
電話：03-3434-2170 FAX：03-5401-0681
URL:https://www.niceheart.or.jp/
ないすはあと

仙台リハーサル大会の様子

表紙／写真　仙台リハーサル大会…… 1
報告／代表理事就任のご挨拶…… 2
（公財）国際障害者年記念ナイスハート基金　新代表理事　西原　浩一郎
報告／代表理事辞任のご挨拶…… 3
（公財）国際障害者年記念ナイスハート基金　前代表理事　瀬田　公和
告知／ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in　ちば …… 4
お知らせ／特定寄附金のお願い…… 5
報告／仙台リハーサル大会…… 6
寄附金御礼他…… 8

３．調査研究事業

（1）ユニバーサルスポーツ研究事業～障害者施設・団体とのネットワーキングを深める

新型コロナウイルスの感染拡大により、予防対策のため様々な属性の個人、団体が従来保っていたつながりが弱くなってきている状況があります。とりわけ多くの個人、団体とのつながりの中で運営されてきた障害のある方の施設や団体においては影響が大きなものとなっています。

コロナ禍のなかでも取り組みに工夫をこらしながら活動を行っている障害福祉サービス事業所の現場の取り組みについて研究し、地域における社会参加の拡がりにつなげていきたい考えています。

実施概要
実施主体　公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
　　有識者による研究会
研究目的　新型コロナウイルス感染症対策のため施した障害者福祉サービス事業所や団体の取り組みを取り上げ研究する
成果物　　報告書を作成。当基金ホームページにて配布